本を選ぶ

高校図書館版

NO.11　1991年(平成3年)5月10日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL 03-235-6168

ぶっく・えんど

本と出会う

梅から桜へ四季のバトンタッチが行なわれた。「桜の樹の下には、屍体が埋っている」とぞっとするような花の美しさを讃えた梶井基次郎が31才で病死したのは昭和7年3月24日、桜のつぼみがふくらみはじめた頃である。満開の華やかさは短く、それは同時に、散り急ぐための美しさでもある様を惜しむような言葉である。

桜でもう一つ思い浮かぶのは、入学、進学、就職である。学校図書館にも新しい顔ぶれがそろってくるだろう。

1冊の本を最初から最後まで読み通すには忍耐が必要だ。ある哲学者は言う。「テレビはおおざっぱな筋を追い、体や表情の動きを見せてはくれるが、精神の変化はあらわれない。かりにひじょうに上手に表現されていても、みすごしてしまえば、それっきりだ。1冊の本のなかに、一つの世界があり、いろいろな人生がある。人間一人が実際に自分で体験できる人生は一つしかないが、読書はあらゆる人生体験を教えてくれるのである。人は、1冊の本を読むごとに、人生をより豊かにしていくことができるのである。」

私は、テレビ文化そのものを、否定するつもりは毛頭なく、テレビの楽しさを享受して日々暮らしている。その相対として活字文化が軽視されるのを、それも青年たちに軽視されるのを不安に思っている。

私は、高校2年生の時、吉田松陰の遺書『留魂録』の一文に良き指導者、つまり＜人生の師＞が必要だという事が書いてあるのを知り、その全文が読みたくて、学校図書館でリクエストしたことがある。あいにく私の学校には所蔵されていなかった。一言「ここには置いてありません」と言えばすんでしまうところを、2週間かけて他の図書館から取り寄せて下さった。読みたい本を手にした時の嬉しさを覚えているし、その時の学校司書の方に今でも感謝している。

『留魂録』の内容よりも、手にした時の弾んだ気持を覚えている。

話は変るが、今年は年頭から半世紀もタイムトラベルでもしたような光景が、テレビの画面を通じて飛込んできた。湾岸戦争の意味を問う集会なども開かれているが、とにかく戦争ほど悲惨なものはない。戦争ほど残酷なものはないが、湾岸戦争の終結間際に、女性兵士として妻を前線に送りだした夫の話をニュースで聞いた。昼間は仕事、帰宅後は家事に育児にと母親代りを務めたあと、子どもたちと一緒にベッドに入り、毎晩必ず母親が童話の朗読を吹き込んだテープを聞かせているという話だった。荒野の中で、たんぽぽの花を見つけたような、生命のたくましさ、尊さ、家族の深い絆を感じた。

本と人が出会うには、もう一人の人が必要だということは、忘れられがちだが、高校の図書館にプロの誇りと使命感を持った学校司書の方がいて下さって、「青年が心に読書と思索の暇(いとま)を作る」ことができるのだ。

（安藤　正幸：埼玉県小川町町役場）

住商の図書館　春の巻

井　上　明

たまっていた寄贈本（マンガ300冊、文庫本200冊）の整理がやっと終わった３月下旬、小さな来訪者を迎えた。この４月、小学６年生になる３人の女の子。

「おはようございます」との挨拶は、やや緊張気味。

「ご自由にどうぞ」の言葉とともに、まずはマンガコーナーへ一目散。

机の前できちんとマンガを読んでいる彼女たちに、「ストーブのところに、椅子を出したら？」というと、ニコッと笑ってストーブのそばへ。

クラブの休憩時間になると、うちの生徒がやってきて、いつものようにストーブの周りに座り出す。それを見ていたのだろう。午後からは彼女たちも座り出す。最後には寝っころがって読んでいる。それにしても、いくら読んでもマンガは飽きないらしい。すばらしい忍耐力？

朝10時過ぎに来て４時頃帰っていったが、まだ名残おしそう。小学生にも飽きさせない図書館、なんていうのは手前勝手な見方でしょうね。

住商図書館は非常に〈サワガシイ〉ところとして学校内で有名です。本当にニギヤカです。昼休みが終わった後は耳がボワーンとしています。たまに注意される先生もおられますが、そのうち諦められます。でも1450人もいて静かなほうが気持悪いですね。甘やかしすぎ、マンガばっかしの陰口にも耐え、日々頑張っています。

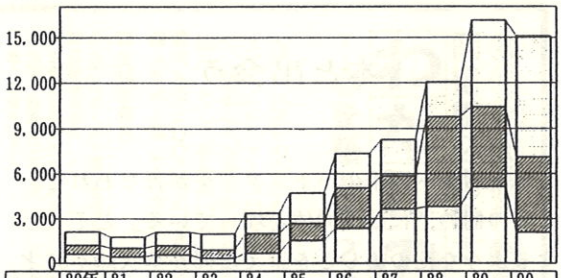
勉強ばっかりして、静かなだけが図書館ではないと私は思います。住商の図書館には、生徒同士の会話があり、先生と生徒の会話から成り立っています。この雰囲気は、どこの学校にもあるものじゃないんじゃないでしょうか。私が１年生からずっと図書委員をしている訳は、この雰囲気にあります。唯一、教室よりも安らぐことのできる場所です。

《91.3卒》宮田　友美

さて、84年度から増え続けた貸し出し数が90年度、久々に減少しました。１年生の利用が急激にダウンしたためです。マンガさえも惹き付けられなかったこの学年。図書館にあまり足を運んでくれない。毎週１回発行のビラもいきわたらない。単年度の減少現象なのか、それとも？　今年は１年生にちょっと力を、と思っています。

年度別・学年別貸し出し数

（単位：冊）



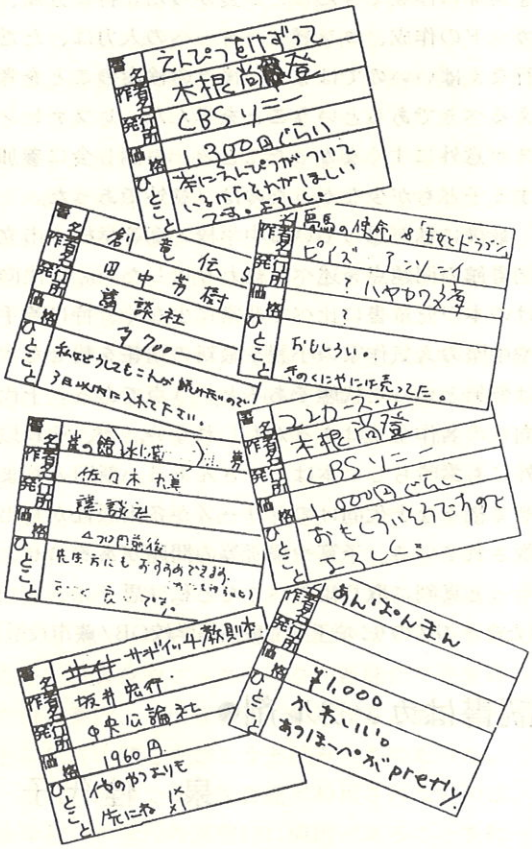
	80年	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
1年	600	433	558	346	657	1,529	2,340	3,632	3,783	5,138	2,092
2年	582	574	623	563	1,331	1,144	2,709	2,221	5,969	5,288	5,020
3年	926	752	909	1,058	1,369	2,050	2,295	2,425	2,312	5,684	7,968

住商図書館では、一般的に学校図書館がやらねばならないと言われている事（?）があまりできていません。司書に力が無いせいもありますが、膨大な学校図書館の仕事量を考えるとき、全てに力を注ぐということはやっていられないのです。あまりやりたくないこともあるわけです。

利用者が求める本をいかにすれば手渡せるか、その部分に重点を置き、それに必要なことには、力を注いでいます。それに徹したいなあと思っています。例えば、生徒・職員の購入希望を十分に尊重し、希望があればホトンド購入しています。カウンターでの会話を大切にし、学校の動き、授業の動きも敏感に察知するよう、アンテナを張りめぐらせています。そういう時、図書館部の教員や周りの人たちの協力はありがたいです。

そうは言っても、＜学校図書館＞。いろいろ断ち切れないことがありますね。

利用者が求める資料を提供する。当たり前のようですが、なかなか難しいですね。



購入希望カード

全てについて知っているわけでもない司書あるいは教員が、利用者の求めを、こちらの判断だけで切るということはしたくない、そう思って運営しています。

＜イイ本＞とはあくまでも、個人的なもので、より多くの人の目で選んだもので、図書館を作っていけたら、そう思っています。

「○○の本ありませんか？」と言ってきた１年生がいる。残念ながらなかったので、「買いましょうか？」と言うと、「いいです」。ところが次の機会には、購入希望を出し、２年生になると「○○の本出てるよ。こうといて」になり、３年生になると「まだ入ってないの。遅いなあ」になる。内心、クソと思いながら、競争心が燃えてくる。もちろん、初めの時に買って手渡したからですが。

利用者の要求を満たしていく中で、購入希望もどんどん増えてきています。図書購入費があまり増えないのが、悩みですが。いろんな思いをこめての購入希望カードのひとこと欄。楽しいです。

「なんか、いい本ない？」とカウンターにくる生徒がたくさんいます。非常に難しい質問で困ってしまいます。二言三言話して、何冊かの本を紹介するわけです。「面白くなかったら、すぐやめや」と言いながら渡します。

また「この本、面白い？」と聞かれた時も、たとえその本を知らなくても、「面白いで」と答えるわけです。

そういうハッタリも必要なんですね。図書館の読書＜指導＞なんてそんなもんでいいのではないかと思うのですが。

最近は、マンガについて好意を示す先生が増えてきました。批判されるのは、中身よりも使い方のように思われます。住商図書館のように非常にたくさんのマンガ（約2000冊）を備えていて、しかも貸し出しが無制限の図書館では、授業中に読むとか、教室に放置するとか、そんなことが後を絶たないようです。好意を示してくれている先生程、悩むようです。「マンガに負けないような授業しろということでしょうかね」と言われると申し訳なく思い、「まあ、授業中には読まないようにと言われたらどうですか。でも、マンガを無くすることだけでは、解決しない問題やないですかね」。勿論、図書館に置いているから悪いのだと言われる人には、きちんと反論しますが。

また、「先生、ゴメン。あの本どっかいってしもた。どないしたらええやろ」と言ってくる子が、貸し出しの増加とともに増え続けてきています。現物（同じ本）弁償を基本としてやってきましたが、子どもたちにとって、同じ物を探してくるということは、なかなか困難のようです。ある時期から、どんな本でもいいことにしました。マンガなどの場合、たいてい２、３冊余分にもってきてくれます。いろいろ問題もありますが、生徒たちの「返そう」という気持を大事にしたいと思います。

まあいろいろ問題が起こってくると、自分の弱さがみえてきます。「こんなに、してやっているのに」といった気持が頭をかすめます。そういう時、「たいしたことやないわ」とふっきることにしています。

「学校図書館の主人公はだれだ」を反芻しつつ。

（いのうえ あきら：大阪市立住吉商業高等学校司書）

図書館員になりたくて●

田中秀典

この春社会人になった私は、現在研修中の身であり正式な配属先は決定していない状態である。

中学生の頃より将来は図書館に勤めたいと決めていた。残念ながら、中学校では図書委員になれず、高校生になってやっと図書委員になれた。２年生のときに委員長を務め、今思い出しても最高に幸せな時だった。

委員の仕事といっても、カウンターでの貸出・返却がほとんどで、あとは統計、年２回の広報誌の発行ぐらいであった。今になってみるとよくあんなに好き放題できたと思う。広報の特集記事に力を入れすぎて年１回しか発行できなかったり、リクエスト制を利用して、若手作家の本を大量に図書館に入れたり、自習時間・昼休み・放課後は図書館に入りびたりで、友人と話しこんだものであった。学校司書の先生に多大なご迷惑をかけたと今ごろになって反省している。

最終的には先生方のチェックが入ったものの自由に活動ができたことと、かけがえのない多くの友人とめぐりあえたことは、最良の思い出として私の心に今でも残っている。

卒業後、司書資格を取得するために大正大学に入学した。大学在学中は、これまでの反動か市立図書館や学校図書館をあまり利用しなかった。時間つぶしや雑誌を読むために読書室を利用した程度であった。これは大学の図書館が閉架式であったことと、雰囲気が高等学校のそれと全く異なっていたためであろう。日曜日もアルバイトをやっていたせいもあり、大学時代は学校の講義を除き図書館から離れていった。

大学４年生の２月に２週間の図書館実習を行なうことになった。この時点で地元の埼玉県蕨市役所に就職が内定しており、できれば蕨市立図書館で実習を行ないたいと希望したところ、担当の北嶋教授のご尽力により、２月５日から２週間、蕨市立図書館で実習を行なうことができた。年度末の蔵書点検の前の忙しい時であったが館長さんはじめ職員の方々が親切に指導してくださった。

実習では、利用者から見られない場所での仕事を実際に体験できたことが良かった。特に分類、カードの作成、コンピューターへの入力は、ただ行なえばいいのではなく、後々の検索のことを考えるべきであるということを学んだ。レファレンスが意外にすくなかったことと、お話し会に参加する子どもが少なかったのは、意外であった。

最後に私が思っている中学校・高等学校・市立図書館の問題点を述べて終わりにしたい。十代向けの本が児童書に比べて非常に少なく、特に若手や中堅の人気作家の小説や最新の情報を載せた本は皆無といった状態であるという点である。十代向けの名作全集はあるかもしれない。が、それ以外にも素晴らしい本はたくさんある。新旧とりまぜて様々な十代向けのシリーズが各出版社から出版されている。予算や場所等の問題があるにせよ、もっと真剣に取り組むべきだと私は思う。

（たなか ひでのり：埼玉県立蕨高等学校OB／蕨市役所）

読書はカンフル剤●

泉　佳代子

中学校の進路指導の時間だった。進路担当の先生から、「履歴書の趣味の欄を読書とする人は、十分準備をして臨むように」との注意があった。先生によれば……それを見た面接官の質問は「好きな作家は誰ですか」、「最近読んだ本は？」となるだろう。この質問を予想してあらかじめ返答を用意していても、試験の緊張から答えを忘れるおそれがある。またこの質問に「夏目漱石」や『坊っちゃん』など有名な作家・作品で答えると「登場人物で一番印象に残っているのはだれ？」等次々質問してくる。印象を良くしようとしたのが、かえって逆効果となる……というのである。小説は主人公の行動の背景・心情等を踏まえてこそ、おもしろ味があり、自分の中に定着していく。面接で良い格好をしようとして暗記する読書など無味乾燥でつまらない。

私の場合、「趣味は？」と聞かれれば「読書」と答えてきた。しかし、私の読書は古典名作を読みこなし、己の血肉にするようなものではない。私にとって読書は、自分が解放される時間であり、逃避できる場所である。逃避というと言葉が悪い

が、病気や怪我をしたら、内科や外科に通うのと同じで、私の場合マイナス思考になったら、本を読む。読書が精神安定剤・カンフル剤の役目を担うのである。時にはカウンセラーしてくれることもある。治療が終われば社会復帰だ。もちろんプラス思考の時にも本を読む。私にとって本は、喜怒哀楽いかなる時でも、受入れてくれる心の広い友だちなのだ。名作であろうとなかろうとそういうことは重要ではない。

さて「本は友だち」人間にとって、本屋や図書館は憩の場である。高校時代は毎日の様に学校の図書館に顔を出したし、帰宅途中の市立図書館にも通いつめた。

高校の２・３年生の２年間、私は図書委員をした。利用者として顔を出していた１年生の時に、司書の先生と親しくなったからである。委員会では、どうやったら図書館の利用が増えるかを考えたり、読書会やブックトーク、新聞作りや夏休みの読書案内、文化祭参加、館報作りと機会あるごとに生徒の関心をひこうと試みたものだった。

最近、高校で学校図書館が利用されないのは、小学校・中学校の図書館に原因があることを知った。というのも高校時代の学校司書の先生のすすめで、〈越谷市の学校図書館を考える会〉の会員となり、市内の小学校や中学校の実態を知った。学校図書館とは名前だけで、司書は配置されていなかった。高校生になってから、図書館に興味を持てといっても無理な話である。若者の読書離れを嘆く人は多いが、その背景になっているこうした現状を、より多くの人に知ってもらいたい。

(いずみ かよこ：埼玉県立越谷西高等学校OG/十文字女子短期大学図書館)

〈越谷市学校図書館を考える会〉と出会うまで●

大石久則

私と図書館との出会いは小学校でした。古い学校で、新しい本はあまりなく、たまに授業に使用した時も、貸出しはほとんど行なわれていませんでした。中学校では軽い気持から図書委員になりましたが、本はあまり読まず、図書室を開けるために行っていたようなものでした。

高校に入学して驚いたのは、図書館が毎日、それも一日中開館していたことです。それは専任の司書がいるからこそできるのだと知ったのは、後のことでした。

高校での図書館とのかかわりのほとんどは、委員会でした。初めの２年間は、利用者の立場で昼休みや長期の休みの前に利用していました。中学校と比べると、常に開館していたので、借りた本の冊数も増え、わからないことがあっても司書の先生がいましたので、すぐに解決しました。そのうち、知り合いの誘いで館報制作を手伝うことになってからは、委員としてもかかわる様になりました。委員としては主に広報を担当し、館報や読書案内を作ったり、当時は新しい試みだった読書会や文化祭参加等の企画にもたづさわっていました。館報の『WONDERLAND』は年度末に１回発行しており、私が２年生の時には、まだ学校の印刷機で刷り、私たちが製本していました。なかなか大変な作業で46ページのものを1500部印刷するのですが、印刷が始まっても後半のページ割りが決まっていなくて、学年末試験が終わってからは毎日８～９時近くまで製本におわれていました。翌年には印刷製本共に業者に頼みましたが、やはり遅くまで作業におわれていました。

読書案内は、新着図書案内や長期休みの前に各教科から出される課題図書などのあらすじ紹介などを行なっていました。

読書会は、一般の生徒の参加はほとんどなく、委員の一部の人の参加に終わってしまいました。

文化祭の参加ではメインに古本市を行ないました。他にも事前に読書に関するアンケートをとりその結果を展示したり、和綴で作ったメモ帳等の販売も行ないました。

専門学校に進んでから、図書館との関係は大きく変りました。そこの図書館は閉架式で、レポートの資料を探すために利用しただけでした。それは図書館の性質の違いで、今までのように読書中心から、調べもの中心に変ったからだと思います。

そして社会に出てからは、図書館とも縁遠くなり、読書の方も月に１冊読むか読まないかになってしまいました。

昨年の夏、高校時代の司書の先生から〈越谷市学校図書館を考える会〉へのお誘いを受け、初めは軽い気持で例会に参加しましたが、学校図書館

の聞き書き調査で、越谷市内の小学校・中学校には、１人も専任の司書がいない現状を知りビックリしました。今年の３月の１周年記念講演会で「子どもに本を、学校図書館に司書を！」のテーマで宇原郁世さんのお話を聞きました。同時に見たスライドで、司書のいる学校といない学校での子どもたちの姿の違い、授業との連携、どれをとっても歴然とした違いがありました。印象に残っている宇原さんの言葉は、「中学を卒業するまでに、岩波新書がすらすら読めるようになるといいですね」でした。

今私自身を振り返ってみて、やはり幼い頃から本に親しむ事が大切だと思います。そしてそのためには全ての学校図書館に司書が必要なのです。

（おおいし ひさのり：埼玉県越谷東高等学校OB/会社員）

頑張るOB会●

澤口恵一

図書館とつきあいはじめてから、かなりの年月になる。ぼくは小さい頃から絶えず図書館と接してきた。

ぼくの通った小学校・中学校の図書館はご多分にもれず司書がいなかった。薄暗い、寒々しい倉庫の様なスペースだった。そんな環境でも、本の魅力に惹かれて日に何度も図書館に通った。けれども僕は良き利用者でも良き図書委員でもなかった。図書館の机はちょうどよい卓球台になったし、カウンター当番よりも部活を選んだ。この頃、ぼくは知的好奇心を満たす楽しさを知ったのだけど、分類法もわからない少年が本を探すのは孤独で苦痛な作業だった。

ぼくが初めて司書に出会ったのは、越谷高校の図書館オリエンテーションだった。ここで初めて人のいる図書館の暖かさを知った。この時本を借りたぼくに、当時越高の司書をなさっていた長谷川先生はさりげない一言をかけた。その一言を５年経った今でも克明に思い出すことができる。

ぼくは迷わず図書委員になった。委員たちの自己表現と創造力に満ちたにぎやかな場所。本を通じて生れる人と人との結びつき。その結びつきの中で本もまた生きるのだ。それは学校図書館ならではの得難い宝だったのだと今にして思う。ぼくは図書委員としての生活に没入していった。毎日日が暮れるまで図書館に残り、夏休みにも登校して文化祭の計画を練ったものだ。

越高の図書館で得た仲間はぼくの一番の財産になっている。毎年春に図書委員会のＯＢ会を開くのだけど、今では出席者が多すぎて結婚式場を借りなければならないほどだ。そういう仲間がもう十代も続いている。このつながりを放っておくのは惜しいから去年からＯＢ会の機関誌『ビブリオン』を発行している。ＯＢ会とはいえ正式な組織があるわけではなく、『ビブリオン』もぼくら有志が発行しているのだけど、喜んでくれる人が多いようだ。

『ビブリオン』



今年の１月には、図書委員同士のカップルがゴールイン第一号を果たした。ぼくたちは、越高の図書館をお借りして、ささやかだけど本当の結婚式をして祝った。そして今は、夏のキャンプ計画で盛り上がっている。

この春、越高の司書の谷口先生が家庭の事情で退職され広島に越された。谷口先生が長谷川先生の後任として越谷高に勤められたのは３年間だった。長谷川先生が教えてくれたのが、図書館の暖かさや素晴らしさならば、谷口先生からは、図書館のあるべき姿と現況の途方もない開きを教えられた。

＜越谷市学校図書館を考える会＞にぼくが参加したのも先生の紹介による。この会は越谷市の小学校と中学校に図書館の専門職員が全校配置されることを目的に発足した。ぼくのような図書委員のＯＢも多い。ここで初めて小学校や中学校の図書館の現状を知って驚いた。自由な教育、自主学習が盛んに叫ばれる世の中で、それを支えるはずの図書館がこうもなおざりにされていようとは。

今ぼくは図書館について思うとき、自由と民主主義について思わずにはいられない。それらは遙か彼方にある理想でしかなく、少しでも努力を怠ればたちまち遠ざかってしまうものなんだということに、気付いていない人が多い。

学校図書館はその理想のための素養を養う貴重な場所になりうる。ぼくがこんな視点を持つに至ったのも学校図書館を通じて得た本と人のおかげなのだから。

(さわぐち けいいち:埼玉県立越谷高等学校OB/大学2年生)

出会いは掃除当番から●

北田謙二

高校に入って初めて司書というものに出会った。もちろん市立図書館に行ったことぐらいはあったが、本物の司書にあったのは高校が初めてだったかもしれない。

私は今でもそうだが、あまり本を読むほうではない。だから、その出会いというのも、たまたま私のクラスが図書館の廊下の掃除当番になっていたから起きたようなものである。思えば小学校・中学校と図書館とは時たま空き時間に担任に連れていってもらったり、ごくたまに自分で何を間違ったか本を借りにいったりする場所ではあった。あくまでも場所であった。それに比べて高校の図書館には、いつでも扉をあければ声をかけてくれる司書がいた。人がいるのはいいものである。それだけでもう図書館はただの場所から、命を与えられたかのように姿をかえる。その図書館の姿に魅せられて、私は図書委員になった。

図書委員になった私を待っていたのは、魅力的な図書館を蔭で支える魅力的な多くの仲間たちであった。一人一人の個性にあわせて、仕事のポジションが与えられ、一人一人が「好きでやっている」といえるような場所だった。だからこそ、図書館はいつも活動的で、いつも輝いていた。

そして結局私は、高校の３年の間ずっと、図書委員を続けた。図書館という場を与えられ、本と図書館に関わる仕事であれば何をすることも許された。上映会や、年中行事にあわせた展示、お料理教室。思いつきさえすれば活動の可能性は無限大だった。それを支えていたのは、図書館自体が持つ可能性だったのである。

図書館はありとあらゆる知識・情報を網羅し、蓄積し、人にその活用を促す。いわば文化そのものである。つまり大げさに言えば、図書館の中には小さいながらも世界そのものがある。だから、バラエティーに富んでいて当然なのである。そして司書こそが人と知識とを結びつける人であり、私にとっては現代に現われた賢者なのである。

高校を卒業して、めでたく大学にも入学することができた。高校時代にいろんな人と出会って、人間に興味があったので、心理学科に進んだ。大学生活は高校時代とはまったく違っていた。１年の大半が休みという自由な生活。自由ほど厳しい規則はない。自分で目的を見つけ出し、自分で活動する。そういった意味では、世の中で一番厳しい場所かもしれない。そんなこんなで、１年目は、勉強だけはしたものの、あとはアルバイトに明け暮れて過ぎてしまった。

１年生の冬に、高校の司書の先生に声をかけられて、〈越谷市の小・中学校の図書館の聞き書き調査〉という実態調査に参加した。調査で私が見たのは、ただ本が並べてあるだけの無味乾燥な図書館だった。それから、「小・中の学校図書館に司書を!」の声の下、調査に参加した人たちが中心になり、〈越谷市学校図書館を考える会〉が結成された。私自身は、自分の弟くらいの年頃の子どもに「本ばかりを読みなさい」というつもりはない。たくさん遊んでほしいし、いろいろな経験もしてほしい。たくさんの価値観や生き方の中から、自分にあったものを選び、自分を生かしてゆける場を見つけだせる人になってほしい。その手助けをしてもらうために、司書が図書館にいてほしいのである。

(きただ けんじ:埼玉県立越谷高等学校OB/大学3年生)

自然の中で,山や森や川の
生きている姿を探ってみよう!

シリーズ
自然景観の読み方
全9冊

〈第1回〉7月5日 2冊同時発売

3山を読む……定価1200円　4森を読む……定価1200円

●本書は予約出版ではありません. 各冊ごとにお求めになれます. ●B6判並製・カバー・平均150頁

岩波書店　〒101-02 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
〈定価は消費税込みです〉

心の習慣
アメリカ個人主義のゆくえ

R.N.ベラー他　島薗 進・中村圭志訳

強いアメリカにひそむ病める現実. アメリカの伝統=個人主義がいかに変ってしまったのか? 孤立化のみが進み, セラピー文化を生み出した情況を, 著者は, 200人余の人々へのインタヴューを通して解き明かす. '85年発刊以来, 35万部を越すベストセラー.

目次抄　幸福の追求／文化とキャラクター／自己を見出す愛と結婚／手を差し伸べる／個人主義／社会への参加／市民精神／宗教／国民社会　〔A5判　440頁　3914円〕

東京文京本郷3　みすず書房　☎03(3814)0131

限りなく広がる知識の世界
創業101年—辞典370点突破!



40年にわたる研究と
12年の歳月をかけて
編纂した決定版!
石綿敏雄編

本書は現代のカタカナ語をあらゆる分野・時代から大幅に採録。語源や語構成などの語学的な解説もほどこし、外来語研究第一人者による最新版

基本外来語辞典　四六判1100頁●好評発売中　定価2900円

東京堂出版　〒101 東京都千代田区神田錦町3-7　☎03(3233)3741 最新辞典目録進呈

日本ライブラリー出版会

全国の図書館に信頼されて33年!
毎年定評ある巡回訪問販売を続けています

当会は高校図書館・大学図書館及び公共図書館等の蔵書充実を目的とし、その一翼を担う有志出版社で構成された巡回訪問販売等を行うグループです。
皆様の図書ご購入の参考としてお役に立てばと願っておりますので当会をご利用たまわれば幸いです。

岩崎美術社・岩波書店・京都書院・研究社
弘文堂・晶文社・東京書籍・東京堂出版
ベースボール・マガジン社・山と溪谷社

日本ライブラリー出版会事務局
(岩崎美術社内) 03-3824-1731

文庫サイズの新しい文学全集。ぜひ手にとってみてください。

●柔らかい上製本●読みやすい二色刷

ちくま日本文学全集
全50巻

既刊6冊好評発売中・各1000円(税込)

芥川龍之介／寺山修司／宮沢賢治
太宰治／内田百閒／坂口安吾

筑摩書房　東京都台東区蔵前2-6-4　☎03(5687)2680

身近な現象の物理と化学
鈴木智恵子著　理科がおもしろくすきになる本。数式を使わずに、280余枚の図版で、物理や化学の基礎的な概念をわかりやすく説明する。何気なく見すごしていた身近な現象を、実験→解説→例から明快に説く。
2678円

生化学入門
村上枝彦著　化学史と生物学の立場からまとめた入門用テキスト。イラスト多数。　1648円

自然をしらべる地学シリーズ
地学団体研究会編　B5判　各巻2000円（全5巻）

生物学教育講座
沼田真監修　A5判
セット価22600円（全10巻）

新地学教育講座
地学団体研究会編　A5判
各巻1600円（全16巻）

環境教育のすすめ　沼田真 編
A5判　248頁　2575円

東海大学出版会
〒160 東京都新宿区新宿3-27-4 東海ビル　電話03(3356)1541

絵でわかる。よくわかる。

特装版 シリーズ **絵で見るスポーツ** 全18巻

カラー・イラストを駆使して解説する、最新スポーツ技術！

■B5判上製　■平均208ページ
■第1期(全9巻)　発売中　セット定価25,200円
■第2期(全9巻)　5月発売　セット定価25,200円

BASEBALL MAGAZINE SHA
株式会社 ベースボール・マガジン社
〒101東京都千代田区三崎町3-10-10☎03(3238)0181

■基礎生物学講座■〈全11巻刊行開始〉
1 生体の成り立ち 定価3399円
5 植物の生理 定価2987円

家政学事典 定価25750円
古生物学事典 定価9888円
例解化学事典 定価5459円

総合図書目録'91あり、ご請求下さい

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29 〒162 ☎03－3260－0141

第1回富田砕花賞／第13回路傍の石文学賞受賞！

心の中にもっている問題

詩人の父から子どもたちへの45篇の詩

長田弘　必要なのは言葉です——。幼い子どもたちに話しかけて綴るひらがなの詩から、大人になった子どもたちに人生の友として贈る詩まで。20年間にわたり書きつがれた、物語としての詩の本。 **1600円**

猫がゆく　サラダの日々

長田弘　ひとりの少女が風のように街をゆく。いっぴきの、年老いた猫をつれて。ふたりの孤独な親友の、夢と自由をもとめる日々の物語。ロングセラー『ねこに未来はない』の姉妹篇、珠玉の物語エッセー。**1400円**

晶文社　＊価格は消費税込みです。
東京都千代田区外神田2-1-12
電話(3255)4501

類書を圧倒する超豪華本！

スーパー・イラスト版

恐竜

S&Sツェルカス/他　小畠郁生/監訳

地球環境からみた
恐竜の進化と絶滅の物語

現代恐竜学の権威と世界的に著名なイラスト・レーターたちがリアルによみがえらせる恐竜たちの失われた世界！　図書館必備

7月上旬刊●定価9800円●内容見本呈

河出書房新社
〒151 東京都渋谷区千駄ケ谷2-32-2　電話03-3404-1201

初めてまとめた貴重な資料！

図説 日本の史跡 全8巻

監修／文化庁文化財保護部史跡研究会
企画協賛／全国史跡整備市町村協議会

文化財保護法によって指定された特別史跡・史跡1310すべてを、約6000点の写真・各種の図版を用いビジュアルに網羅。史跡の沿革や状況などについて専門家のわかりやすい解説をつけた。待望の資料集！●A4判／全8巻揃定価112000円(税込)・各巻定価14000円(税込)　＊呈内容見本

同朋舎　本社　京都市下京区中堂寺鍵田町2
支社　東京都千代田区神田駿河台2-11-1
フリーダイヤル0120－304081

N・S・ゴルジェンコ著／宮本延治 訳

現代ロシア正教

A5判上製貼函入416頁・定価6,000円

●伝統墨守のロシア正教は革命後の苦難をどう乗り切ったか。その教義と組織、礼拝儀式の活動の現状を紹介する！

N・M・ニコリスキー著／宮本延治 訳

ロシア教会史

A5判上製貼函入520頁・定価6,500円

●ペレストロイカによみがえるロシア正教千年の歴史をソビエト史学の眼で取り上げた唯一にして不朽の名著！

文化の架け橋をめざす　株式会社 恒文社
〒101東京都千代田区三崎町3-10-10☎03(3238)0181

フロッピーディスク付きの本

既刊24冊

適用機種：PC-9801

パソコンで学ぶ **初等数学** 1・2 3・4　伊藤直人・藤崎恒晏著　3,914～4,326円〒361～412円

パソコンで見る **関数グラフィックス** Part 2　糸岐宣昭著　6,180円〒515円

パソコンで見る **関数グラフィックス** 応用 1　糸岐宣昭著　4,944円〒412円

パソコンで学ぶ **基礎確率・統計**　藤崎恒晏著　4,635円〒412円

パソコンで見る **物理シミュレーション**　吉沢純夫著　4,635円〒412円

表示価格は税込定価

森北出版

〒102 東京都千代田区富士見1－4－11 ☎03(3265)8341代表

カラー版

世界宗教事典

R.ケネディ原著　田丸徳善監修　山我哲雄編訳

世界の諸宗教を理解し、世界のニュース、世界の出来事を洞察するために、客観的・学問的で、簡略な入門的情報を提供する！

（特色）1．カラー、モノクロ写真約300点収録
2．世界にある大小の諸宗教を紹介する
3．各宗教の儀礼、祝日、称号、職制
4．各宗教の聖典、重要人物、諸説
5．各宗教の〝神的なもの〟
6．宗教的学説や宗教運動を／
7．用語辞典を兼ね、年表、宗教カレンダー、抜粋聖典



B5判／326頁／定価 7,500円

電03(3561)5549 教文館
104・東京都中央区銀座4－5－1

リブロの画集●内容見本同送

ワイエス画集Ⅱ

クリスチーナの世界

ワイエスの代表画集です。長らく品切でしたが、新装版で再刊しました。20,000円(税別)

フェルメール画集

アルバート・ブランケルトによるカタログ・レゾネとフェルメール論の到達点である論文を収録した、決定版画集。　20,000円(税別)

リブロポート

〒171 東京都豊島区南池袋2-23-2電話03-3983-6191

---

④月全⑩巻同時配本

図書館必備の本

わたしの仕事

—心を語る229名の人びと　全10巻

今井美沙子・著

人間には毎日の生活があり、それを支える仕事があります。このシリーズは、インタビューに答えるかたちで、229名の人がそれぞれ自分たちの仕事の誇り、喜び、悩み、そして夢を熱いおもいを込めて語ります。

■揃定価20000円・各巻2000円(税込)
■A5判上製・写真多用のビジュアルな編集

■全10巻書名
1 自然のめぐみや喜びを売る人
2 伝統を守る人
3 生きるエネルギーを売る人
4 活字や映像をつくる人
5 命と健康を守る人
6 味を求める人
7 日常の生活を支える人
8 生活の場所をつくる人
9 教える人、学ぶ人
10 生活を楽しく豊かにする人

〒162 東京都新宿区若松町15-6 **理論社** ☎03(3203)5791/振替・東京9-95736

ライトハウス英和／和英辞典の関連教材

●ライトハウス英語発音の基礎 3400円
竹林 滋・斎藤弘子 共著

●ライトハウスつづり字と発音の基礎 1200円
竹林 滋 著

●ライトハウス英和の活用法 1400円
八幡成人 著

●ライトハウス英語の句動詞 1400円
東 信行・松本理一郎 共著

●ライトハウス英会話 2800円
松坂ヒロシ・R.スミス 著

●英作文の教え方、学び方 1400円
高瀬はま子 著

研究社　〒102 東京都千代田区富士見2－11－3
☎03(3288)7777販売
※表示価格はすべて税込定価です。

マイクロコンピュータ総合誌　月刊アスキー

ASCII

毎月18日発売　定価580円(税込・送料100円)

パーソナルコンピュータを中心に、最新技術情報、新製品ニュースなどパーソナルコンピュータに関する総合的な情報を提供します。また、コンピュータ利用のノウハウやハードウェア製作記事、プログラミング技法などを紹介します。

〒107-24 東京都港区南青山6-11-1 スリーエフ南青山ビル **株式会社アスキー**
TEL.(03)3486-1977